

競技会規約

■共通の規定

1. 競技の部門

- 距離競技、滞空時間競技共に5部門とする。

幼児の部、小学生の部、一般男子の部、一般女子の部、シニア(満65歳以上)の部

2. 使用する紙は、折り紙ヒコーキ協会の認定競技用紙を原則とする。

- 距離競技 ----- A4サイズを使用
- 滞空時間競技 --- A5サイズを使用

3. 紙ヒコーキは、1枚の紙を折るだけで作ること。

- 禁止事項 --- 紙を切る、他の紙を貼り付ける、オモリ等を付ける、テープの使用、のり付け、ヤスリがけ
※注記：競技前に計測員が機体を確認します。また、計測後に違反が発見された場合は失格となります。
- 競技会に予め上記2. の用紙を使用して製作した紙ヒコーキを持込んで競技に参加しても良い。
ただし、その場合の記録は公式記録として認定されるが、競技会の記録としては以下の数値をマイナスした記録で集計する。

部 門	距離競技	滞空時間競技
幼児の部	0m	0 秒
小学生の部	3m	3 秒
一般男子の部	5m	3 秒
一般女子の部	2m	2 秒
シニアの部	2m	2 秒

例) 一般男子が滞空時間競技で記録が17.73秒の場合、公式記録としては17.73秒で認定されるが、競技会の記録としては17.73秒-3秒で14.73秒として集計される。

4. 競技参加資格

- 全日本折り紙ヒコーキ大会は、参加募集人数以内であれば国内外を問わず誰でも参加できる。
- 全日本折り紙ヒコーキ大会に向けての選手選考会を兼ねた大会においては、その大会主催者もしくは折り紙ヒコーキ協会が設定した地域(在住、勤務、通学、本籍地など)以外からの参加は認めないものとする。
ただし、デモンストレーションでの参加は許可し、その際の記録は公式記録として認定する。また、その際の計測料は、大会主催者もしくは折り紙ヒコーキ協会が設定した金額を支払わなければならない。

5. 公式記録

- 競技会もしくは申請により認定した下表の記録は、各競技、各部門毎のランキングとして、順位、名前、記録、記録日、場所を折り紙ヒコーキ協会のホームページ上で掲示する。

部 門	距離競技	滞空時間競技
幼児の部	7m 以上	3 秒以上
小学生の部	12m 以上	9 秒以上
一般男子の部	25m 以上	12 秒以上
一般女子の部	8m 以上	5 秒以上
シニアの部	10m 以上	5 秒以上

● 認定申請方法

- 競技会以外で本規定に基づいて上表の記録を達成した場合、以下により認定申請できる。
- ・認定申請書に氏名(フリガナ)、住所、電話番号、生年月日、実施日、場所、記録を記入し、立会人の署名、未処理動画撮影の映像データ、認定書発行手数料(1,000円)を折り紙ヒコーキ協会に提出する。
※認定申請者が未成年者の場合は、保護者の氏名も記入すること。
※立会人の署名は、満20歳以上の大人3名とする。

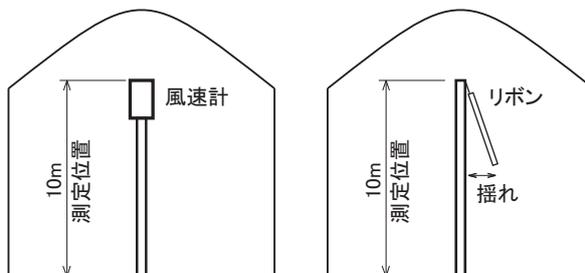
競技会規約

6. 競技会場は、屋内(閉鎖された空間)とする。

●競技会場が例え屋内(閉鎖された空間)である場合でも、その施設の使用条件や開催地域、時期によっては空調設備機器(冷暖房、換気等)の使用や人の出入りによる扉の開閉により会場内が無風状態に保てられない状況が発生するため、風速計を用いて以下の方法により会場内の風速を測定する。

- ・測定する場所 : 会場内の競技エリア中央付近とし、床から高さ10mの位置とする。
- ・測定する時間 : 競技開始前の30分以内、その後は2時間経過毎に1分間測定する。
ただし、主催者および関係者が異常と感じた際は、その都度測定する。
- ・風速の基準値 : 0.4m/秒以下 または
リボン(幅7cm×長さ120cm)の
揺れが5cm以下

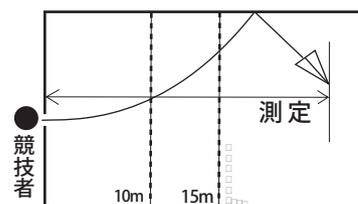
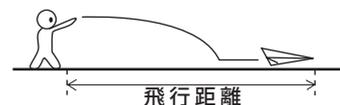
※注記 : 風速の基準値を超えた会場での
競技記録は参考値とし、
公式記録としては認定しない。



■競技別の規定

1. 距離競技

- 紙ヒコーキを投げた位置から床に着地(床を滑って静止)した紙ヒコーキの先端位置までの距離で競う。
- 紙ヒコーキは、手投げとし、ひとりの人(投げる人)が人の助けを借りずに投げなければならない。
- 紙ヒコーキを投げる際の助走距離は10m以内とする。
- 平地のメインフロアより高い場所から投げてはならない。
- 紙ヒコーキの横幅は、8cm以上とする。
- 壁などに当たった場合は、着地点で測定する。
- 距離はcm単位まで測定する。(1cm以下は四捨五入)



2. 滞空時間競技

- 紙ヒコーキを投げた瞬間(手から離れた時点)から床に着地までの飛行時間で競う。
- 紙ヒコーキは、手投げとし、ひとりの人(投げる人)が静止状態から人の助けを借りずに投げなければならない。
- 紙ヒコーキを投げる際に、助走や早歩きは認められない。
- 平地のメインフロアより高い場所から投げてはならない。
- 投げる際の一連の動作で、片足もしくは両足を地面から離れてはならない。
 - ・投げた直後も含む。
 - ・タイミングを取るために1、2歩足を踏み出すのは良い。
 - ・片足が5cm程度まで上がるのは1回のみOKとし、注意を宣告し、2回目以降は記録は無効。
 - ・両足が上がるのはNGとし、記録は無効。
- 滞空時間の記録は、ストップウォッチを使用して測定し、小数点以下2ケタまでを記録とする。
(例 : 1回目 12.34秒、2回目 9.56秒)
- 紙ヒコーキが人に接触、衝突した場合は、その後に落下着地した時点までの時間とする。
1秒以上引っかかっていたときは再トライとする。
また、競技者の申告により再トライできる。
- 紙ヒコーキが人以外の壁や物等に接触、衝突した場合は、その後に落下着地した時点までの時間とする。
1秒以上引っかかっていたり、高所に引っかかったときは再トライとする。

